
とある少年Dの立ち話

柘榴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある少年Dの立ち話

【Nコード】

N1068U

【作者名】

柘榴

【あらすじ】

部活用小説第二弾です。

(前書き)

部活用小説第二弾です。

同部活の友人に読ませたら『怖えWW』と引かれました。

君は、どんな遊びが好き？

はは、色々あるから、いきなり言われても迷っちゃうよね。

そうだな、僕は「色おに」が好き。

え、何故かって。

一つの条件から、いろんな物を探すじゃないか。僕は頭を使うのが好きなんだ。

今まで見慣れたものの、新たな一面が見えてくるのも、またをかし。なんてね。

そんな僕が一番好きな色、分かる？

：『青』。成る程。　　：惜しい。実に惜しいね。

正解は、「黒」。どう、意外だったかな？

：『全然』。そうか、それは残念。

そう、鬼が「黒」って言った時、僕は黒いものを探すのが得意だから、真っ先に助かる。うん、わくわくしちゃうね。

街中でもさ、すぐ黒を探したり。する？しないかなあ。

黒いくつ、黒いくつした、黒いズボン、黒いベルト…え、足元ばかり？

そりゃあそうさ。僕は子供。背が低いから、大人の足元しか見られないよ。

まあ そんなこんなで、世界には黒いものがいっぱいってことに気づくワケだ。

でも なんやかんやで当然に、黒くないものもある。

「いやだな、黒がいいな」って駄々をこねても、事実は変えられない。

あの時は絶望したよ。だから、

…っと、話が逸れたね。失礼失礼。

えーっと。じゃあ、僕が「色鬼」になったら何色を言うか分かる？

『黒』。ふむ。僕の言ったことから推測すると、こうなるのは当然か。

けど、矢張り。君は惜しい。本当に惜しい。もっと、僕の言葉を深くまで読めれば。

当たっていたのかも、知れないね。

正解は、「赤」だ。何故か。

黒になるから、さ。

赤は紅へと変わり、黒に成る。

僕は、黒いものを身につけてない人には、代わりに。僕が好きになれるように、赤くしてあげてたんだよ。

…君の、その白いワンピース。とってもよく似合ってるよ。

さあ、君も、赤に沈む時間だ。

さ

う

ら

よ

な

(後書き)

後悔はしてません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1068u/>

とある少年Dの立ち話

2011年10月8日21時05分発行